



決め手は、青森県産。

りんご生産情報第11号
(9月18日～10月8日)



令和2年9月17日発表 樹上選果マン
青森県「攻めの農林水産業」推進本部

トキの早もぎ厳禁!
トキの収穫は9月27日頃から!!味をのせて適期収穫を!!
台風へ備え、風害防止対策を万全に!!!

I 概要

黒石でのトキの収穫始めは9月27日頃、早生ふじの収穫始めは9月28日頃と見込まれる。

特に、トキは早もぎにより食味の劣る果実が台湾に輸出され、青森県産りんごの評価を落とし、晩生種の輸出にまで影響を与えた事例があることから、果実の表面色や食味等を確認し、適期に収穫する。

葉摘みは、早くから強く実施すると品質低下を招くので、はじめは果実に密着した葉を摘む程度にとどめ、その後、果実に日陰をつくる葉を摘み取る。

除袋は、ジョナゴールドで9月25日まで、ふじで10月5日までに終える。

黒星病の発病葉・発病果は感染源となるので、見つけ次第摘み取り、処分する。二次伸長葉に黒星病の発生が見られた場合は、来年の感染源となるので、必ず摘み取って処分する。

台風へ備え、防風網の点検、補強など風害防止対策をしっかりと行う。

II りんご生産情報

1 果実肥大、作業の進み

(1) 果実肥大

9月11日現在の果実肥大は概ね順調であり、平年並みから平年をやや上回っている。

果実肥大 (9月11日現在、横径：cm、平年比：%)

地 域	年	つがる	ジョナゴールド	ふ じ
黒 石 (りんご研究所)	本 年	9.4	-	8.2
	平 年	8.8	-	8.0
	前 年	8.4	-	7.7
	平年比	107	-	103
青森市浪岡吉内 (東青地域県民局)	本 年	-	-	8.0
	平 年	-	-	7.7
	前 年	-	-	8.2
	平年比	-	-	103
弘前市独狐 (中南地域県民局)	本 年	-	8.6	8.1
	平 年	-	8.4	7.9
	前 年	-	8.7	8.5
	平年比	-	102	103
板柳町五幾形 (西北地域県民局)	本 年	-	8.8	8.0
	平 年	-	8.8	7.9
	前 年	-	8.7	8.5
	平年比	-	100	101
三戸町梅内 (三八地域県民局)	本 年	8.7	8.2	7.7
	平 年	8.9	8.4	7.7
	前 年	8.8	8.1	7.9
	平年比	98	98	100

※各県民局のデータは農業普及振興室の生育観測ほ調査データ

※青森市、弘前市、板柳町のつがるは調査時点で収穫済み

(2) トキの果実熟度

9月13日現在、黒石（りんご研究所）では、平年値と比較して、糖度及び表面色指数は同程度、ヨードでんぷん反応指数はやや低く、硬度及び酸度は低い。総合的にみて、熟度は平年よりやや進んでいるものの、トキの収穫時の標準指標にはどれも達していない。

トキの熟度		(9月13日現在)					
地域	年	果重 (g)	糖度 (%)	ヨード 反応	硬度 (ポント°)	表面色 (1～6)	酸度 (g/100ml)
黒石 (りんご 研究所)	本年	285	13.7	2.8	16.8	1.4	0.246
	平年	261	13.7	3.1	18.1	1.3	0.278
	前年	254	14.9	2.5	17.3	1.4	0.251

- 注) 1 平年は平成25～令和元年の7か年平均
 2 ヨード反応：ヨードでんぷん反応の指数0～5
 小さい数値ほどでんぷんが少ない
 3 表面色：りんご黄色品種青森県標準カラーチャートの指数1～6
 大きい数値ほど黄色が濃い
 4 収穫時の標準指標

食味 (1～5)	糖度 (%)	ヨード反応 (0～5)	硬度 (ポント°)
4以上	14以上	1.5以下	14～15

注) 食味：指数1（未熟）～5（非常に良好）

(3) 作業の進み（9月15日現在）

つがるの収穫はほぼ終了した。
 早生ふじや無袋のジョナゴールドで葉摘みが行われている。
 ジョナゴールドの除袋がはじまっている。

2 作業の重点

(1) トキ、早生ふじなどの収穫

トキの熟度は平年よりやや進んでいることから、収穫始めは黒石でトキが9月27日頃と見込まれる。トキの熟度の進みからみて、早生ふじの収穫も平年よりやや早い9月28日頃からと見込まれる。

地域によって収穫適期が前後することから、最寄りの農協等の熟度調査結果を参考にする。

今年は9月上旬までの高温等の影響により、おい性台樹を中心に各地で日焼け果が見られている。日焼け果の多い年は、貯蔵中の陽向面やけが多くなる傾向があるので、出荷先の選果基準に基づき、十分注意して選別する。

収穫後は、速やかに冷蔵施設への搬入や出荷を行う。

ア トキ

早もぎにより食味の劣るトキの果実が輸出され、輸出先である台湾で青森県産りんごの評価を落とし、その後の晩生種の輸出にまで影響を与えた事例がある。味を身上とする品種であることから、適期収穫に努め、早もぎしない。

収穫は、熟期が揃わないので、「りんご黄色品種青森県標準カラーチャート」などによる表面色指数の判定や食味の確認により、3回程度に分けて行う。その場合、1回目の収穫は表面色指数の3～5の果実が全体の半量程度に達したら、指数4以上の果実を収穫する。2回目以降は指数4に達した果実を速やかに収穫する。

表面色指数5以上の果実は、食味は良いが、貯蔵中に軟質化する場合があるので即売向けとする。



↑ 写真 カラーチャートシール
(りんご黄色品種青森県標準カラーチャートをシール化したもの)

← 写真 りんご黄色品種青森県標準カラーチャート
※お問い合わせ先：公益財団法人青森県りんご協会
電話 0172-27-6006

イ 早生ふじ

収穫時期が早すぎると糖度が低く、食味が劣り、遅すぎると果肉が軟化し、貯蔵力が低下するので、地色を見て2回くらいに分けて収穫する。

早生ふじの収穫時の標準指標

食味 (1～5)	糖度 (%)	ヨード反応 (0～5)	硬度 (ポンド)
3.5以上	13以上	2.0以下	14～16

(2) 中・晩生種の着色手入れ・除袋

早くから葉を強く摘みすぎると、鮮やかな色が着かないばかりでなく食味を低下させるので、はじめは果実に密着した葉を摘む程度にとどめ、その後、果実に日陰をつくる葉を摘み取る。なお、高温時の葉摘みは、日焼けを助長させるので避ける。

除袋は、ジョナゴールドで9月25日まで、ふじで10月5日までに終わる。着色ムラをなくし、リンゴコカクモンハマキの食害を防ぐため、外袋をはぐ時は、果実に密着している葉を摘み取る。なお、内袋をはぐ時は曇天か晴天の日中（10時～14時）に行うが、日焼けの発生を防ぐため、高温時は避ける。

摘葉剤ジョンカラープロを利用する場合は、ふじのみとし、使用時期は「収穫40～50日前」とする。散布後30日間は収穫できないので注意する。

(3) 風害防止対策

台風には備え、防風ネットを張り、破れている部分は補修する。

幼木やりんごのわい性台樹では、支柱のぐらつきや主幹との結束状況を点検し、補強する。また、幹や主枝などに空洞が生じている樹や、腐らん病の被害等を受けた枝や樹は、支柱や縄などで補強する。

落下した果実を加工用に仕向ける場合は、農薬使用基準上の問題がないことを確認する。

(4) 樹上選果

高品質りんご生産のため、肥大や形が悪い果実や輪紋病などの病虫害被害果、障害果を摘み取る。なお、摘み取った病虫害被害果は適正に処分する。

有袋果は、除袋後、丁寧に見直しを行う。

(5) 病虫害対策

ア 黒星病対策

発病葉・発病果は感染源となるので、見つけ次第摘み取り、処分する。

二次伸長葉に黒星病の発生が見られた場合は、来年の感染源となるので、必ず摘み取って処分する。

イ 腐らん病対策

夏場には、病斑の拡大が一時停止していたが、今後、降雨により未処置病斑から胞子が飛散し、来年以降の発生につながる。胴腐らんの治療部を再度点検し、病斑の伸展が見られる場合は直ちに適切な処置を行う。

ウ モモシンクイガ被害果の除去

本年はモモシンクイガの産卵が長引いており、被害果の発生が懸念される。被害果を流通させないために、収穫した果実は選果時に徹底して選別する。特に台湾向けりんごの選果にあたっては細心の注意を払う。被害果は見つけ次第、7日以上の水漬けなど適切に処置する。

(6) 鳥害防止対策

ムクドリ（サクラドリ）、ヒヨドリ、カラスなどの被害が大きいところでは、35mm以下の網目の防鳥網を使用する。

3 一般作業

- (1) 草刈り (2) 徒長枝整理、枝吊り、支柱入れ

4 今後の作業予定

- (1) 中・晩生種の着色手入れと中生種の収穫 (2) 果実疫病対策
(3) 風害防止対策 (4) 腐らん病対策 (5) 支柱の手直し
(6) 鳥害防止対策

《 農薬使用基準の遵守 》

農薬を使用する場合は、必ず最新の農薬登録内容を確認する。

また、短期暴露評価の導入により使用方法が変更される農薬は、登録内容の変更前であっても、変更後の使用方法で使用する必要があるため、変更の有無を次のWebサイトで確認してから使用する。

○農林水産省「農薬情報」 http://www.maff.go.jp/j/nouyaku/n_info/

○(独)農林水産消費安全技術センター「農薬登録情報提供システム」

http://www.acis.famic.go.jp/index_kensaku.htm

○青森県農業情報サービスネットワーク「アップルネット」農薬情報

<https://www.applenet.jp/>

農薬の使用にあたっては、事前に周辺住民に対し、農薬の散布日時や使用者の連絡先等を十分な時間的余裕を持って知らせる。また、農薬の飛散により、周辺作物や近隣の住宅等に被害を及ぼすことのないように農薬飛散低減対策に留意して散布する。

《 農業保険に加入し、農業経営に万全の備えを！！ 》

農業保険には、果樹共済、農業経営収入保険などがあります。自分の経営にあった保険を選択、加入して、自然災害をはじめとしたリスクに備えましょう。

◎果樹共済

「果樹共済」はりんご・ぶどう・ももを対象として、災害による収穫量の減少、樹体の損傷に対する損害を補償します。

なお、暴風雨等の特定の災害に限定して補償する「特定危険方式」は令和3年産までで廃止されることになっています。令和4年産からは病虫害も対象となる「総合方式」または、「農業経営収入保険」への切り替えが必要です。

◎農業経営収入保険

「農業経営収入保険」は、災害による減収に加え、市場価格の低下など農業者の経営努力では回避できない理由により販売収入が減少した場合も補償の対象になる総合的なセーフティネットです。新型コロナウイルス感染症の影響により、収入が減少した場合も補償の対象となります。（青色申告の実施が要件）

※詳しくは、お近くの農業共済組合までお問い合わせください。

《 「あおり9」の生果実流通 》

現在、「あおり9」は「彩香」の商標名で販売されていますが、令和7年10月27日で商標の使用契約が満了となり、「彩香」を使用できなくなります。ついては、令和7年10月27日以降は、「あおり9」で販売してください。

周辺住民及び作物に農薬が飛散しないよう留意して散布しましょう！
機械やはしごを使う際には、事故のないよう十分注意しましょう！

次回の「りんご生産情報」第12号は10月8日(木)発表の予定です。

連絡先 : りんご果樹課生産振興グループ
電話番号 : 017-722-1111代表
 内線 5097, 5092
 017-734-9492直通